

第3学年 国語科学習指導案

令和元年10月24日(木) 第4校時
場 所 3年〇組 教室
指 導 者 神田 さおり

1 単元名・教材名 語りと向き合う「近代の俳句」

2 生徒の実態と本単元の意図

(1) 本単元に至るまでの指導の系統

育成すべき国語の能力 【指導事項 (読むこと)】	学習内容	単元・教材名	学習活動と関連する 他領域等の指導
・文章の表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。 〔2年ウ〕	・短歌の魅力、価値 (表現の工夫) ・短歌の評価の仕方	「近代の短歌」 (2年生)	【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】 ○「近代の短歌」 ○「和語・漢語・外来語」

(2) 生徒観

本学級の生徒は真面目で、向上心を持ち努力して学習に取り組む生徒も多いが、自分の考えをもつこと、それを言葉で表現したり、発表したりすることに対して苦手意識をもっている。埼玉県学力・学習状況調査などでは、表現の仕方から場面描写を読み取ることはできる生徒が多いが、心情を読み取ることは難しい生徒も少なくないことがわかる。作品の場面を読み取るだけでなく、そこに込められた思いを感じることができるよう、言葉に着目して読み深めていきたい。そしてさらに深く作品を読み味わうために、読み比べることで作品を分析し、その魅力や価値を感じられる生徒になってほしいと考える。

(3) 教材観

本単元では近代の俳句を読み味わい、俳句について理解を深めるとともに、表現の工夫に注意して読ませたい。多くの俳句を読み比べることで特徴を捉え、その魅力や価値に気付く力を身に付けることができる単元である。

(4) 指導観

本単元では、学習指導要領「C読むこと」の指導事項ウ「文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方について評価すること」を重点的に指導するために、言語活動例ア「物語や小説などを読んで批評する言語活動」を踏まえ、「俳句を読み比べ、選評を語り合う」という言語活動を設定した。

これからの「主体的・対話的で深い学び」を実現していくために、答えが一つではない課題に対して、子供たち自身が試行錯誤しながら自分だけの答えを見付けていくという活動は非常に重要である。俳句の良さを見付けていく学習は心を豊かにするだけでなく、俳句を読み比べて友達と意見を交流することで、多様な価値観に気付き意見を深めていくことができると考える。

また、表現の工夫に気付くことで、自分の表現や考えが豊かになるという相互作用にも気付かせたい。読むことで得た力を、自ら振り返る活動となるように取り組んでいく。

(5) 工夫する点

教科書教材である「近代の俳句」をそのままに読むとその魅力を感じることが難しいので、ま

ずはお互いが作った俳句で評価し合い、身近な俳句を読み比べて魅力について考えることで、近代の俳句についても深く読み取らせたい。

そして、評価の仕方を手引きで示し、表現に着目して読んで作品を評価する力を身に付けさせたい。

3 単元の目標

- (1) 俳句を読み比べ、その魅力や価値を考えようとしている。 (関心・意欲・態度)
- (2) 俳句を読み比べて表現の工夫に気付き、その魅力や価値を評価することができる。(読むこと)
- (3) 短い言葉から情景を想像し、語感を磨くことができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

4 単元の評価規準や学習活動に即した評価規準

	ア 国語への関心・意欲・態度	エ 読むこと	オ 言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	・俳句を読み比べ、その魅力や価値を考えようとしている。	・俳句を読み比べて表現の工夫に気付き、その魅力や価値を評価している。	・短い言葉から情景を想像し、語感を磨いている。
学習活動に即した評価規準	① 自分たちが作った俳句を読み味わい、その魅力や価値を考えようとしている。 ② 近代の俳句を読み比べ、その魅力や価値を考えようとしている。	① 俳句から、(表現に即して)作者の思いを読み取っている。 ② 俳句を読み比べながら表現の工夫を考え、その魅力や価値を(適切な言葉で表現して)評価している。	① 季語から感じられる秋の情景を、(具体的に)想像している。 ② 俳句を読み、情景を表す言葉から(その特徴を捉えて)作者の思いを感じている。

5 指導と評価の計画(全4時間)

	主な学習活動	学習内容	評価規準・評価方法
1	○「俳句」について確認する。	・俳句の特徴	アの② エの① オの① ・机間指導による観察 ・プリントによる考察
2	○『近代の俳句』を読み、感想を述べる。 ○秋の俳句を作る。	・近代の俳句の意味 ・秋の季語 ・俳句の作り方	
3 (本時)	○俳句の選評について知り、俳句を味わうポイントをつかむ。 ○作った俳句を読み合い、お互いの作品の魅力を評価し合う。	・俳句の選評の特徴や書き方 ・俳句の魅力、価値(表現の工夫)	アの① エの② ・机間指導による観察 ・プリントによる考察 ・発言の様子や態度の観察

4	○『近代の俳句』をもう一度読み、気に入った作品について選評を書く。 ○グループになって自分の選評を発表し、俳句の魅力について考えを述べる。	・俳句の魅力、価値（表現の工夫） ・俳句の評価の仕方	アの② ウの①② オの② ・机間指導による観察 ・プリントによる考察 ・発言の様子や態度の観察
---	---	--	---

6 本時の学習指導(本時 3 / 4 時)

(1)目標

- ・作った俳句を読み合い、お互いの作品の良さに気付こうとしている。(関心・意欲・態度)
- ・俳句の選評の特徴や書き方を知り、読み比べた俳句の良さを評価することができる。
(読むこと)
- ・短い言葉から情景を想像し、語感を磨くことができる。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

(2)展開

学習活動	学習内容	・指導と評価の創意工夫
1 学習課題を確認する。	○課題の確認	・季節感のある話題から、四季の美しさを楽しむことのすばらしさを伝える。 ・俳句の選評の特徴を知ること、どのように俳句を読み味わえば良いかを考えさせる。 ・選評を書くための手引きを確認させ、どこに着目すれば俳句の魅力を読み深められるのかを示す。 ・俳句の作者は公表せず、どのような場面であったかなどを、自分なりに想像して書くように伝える。
3年2組 秋の句会を開いて俳句の魅力を語ろう		
2 俳句の選評について知り、俳句の読み深め方を理解する。	○俳句の表現から想像される「情景」と「心情」	
☆文末表現から見る、俳句の読み深め方 ・「～だろう。」「～でしょう(か)。」「～かもしれません。」 →俳句には書かれていない場面設定や様子、気持ちを想像する。 ・「～ようだ。」→俳句の表現から考えられる様子を想像する。 ・「～そうだ。」→俳句の表現から読み取れる様子を表す。 ○俳句に込められた作者の思い ・「～に～の様子がよく表現されている。」 ・「～という表現から～と感じられた。」 ○作品の魅力・価値 ・「中学生らしい句」「～らしい句」 ・「～な印象を受ける句」 ・「胸に響く」「素晴らしい」「面白い」「楽しい」		
3 作った俳句を読み合い、気に入ったものを一つ選んで選評を書いてみる。	○2の学習内容をもとにした俳句の読み深め方	

夏帽子深くかぶって地面蹴る 愛知県 日浦 舞音 14歳 選評 夏休みの一日でしょうか。友達との間で、何か気まずいことがあったの<u>かもしれません</u>。そのことを、いつまでもくよくよと思い悩んでいる<u>ようです</u>。でもそんな自分の姿を、人前に見せたくはありません。<u>かぶっている夏帽子で顔をかくすように深くかぶり直して、地面を強く蹴って走っています</u>。友達とのいさかいにはいささかの悔いと、自己嫌悪の思いが混じっている<u>ようです</u>。まこと青春時代は、胸に刺さることばかりですね。そんな<u>印象を受ける句</u>です。		・2の学習内容で示した点を踏まえ、作者の思いがよく読み取れるもの、作品として魅力的なものを選んで選評を書くことを伝える。
4 似た俳句を選んだ者同士でグループを作り、選評を発表し合い、その魅力について話し合う。 5 本時のまとめと振り返りを行う。	○俳句の魅力を見直す視点 ○俳句の魅力の味わい方 ○振り返りの仕方 ○次時の流れの確認	評価場面 〈学習活動に即した評価規準〉 アの① エの② 〈評価方法〉 ・机間指導による観察 ・プリントの考察 〈手立て〉 規準に達しない生徒 ・選評の基本型を示したプリントをヒントに、手本に沿って書くように指導する。 規準に達している生徒 ・手引きに示した言葉以外に、俳句の魅力を伝える言葉を考えさせる。 ・あらかじめ俳句を内容によってグループ分けして、共感を持って俳句の魅力を話し合えるグループを作る。 ・近代の俳句にも共通する思いがあることを考えさせる。 ・振り返りの視点を示し、自己の学びを自覚できるような振り返りを書かせる。

7 板書計画

◎「俳句の魅力」とは ○秋の句会 ①素敵な一句を選評する。 ②グループを作り、自分の選評を発表する。 ↓一人ずつ発表する。 ↓聞いていた人は、質問・共感したことを発言する。 ↓終わったら、「俳句の魅力」について語る。	近代の俳句 秋の句会を開いて 俳句の良さを語ろう ◎俳句の読み深め方 ☆文末表現から見ると、俳句の読み深め方 ・「さだらう」「さでしようへか」「さかもしれせん」 ↓俳句には書かれていない場面設定や様子、気持ちを想像する。 ・「さようだ」↓俳句の表現から考えられる様子を想像する。 ・「さうだ」↓俳句の表現から読み取れる様子を表す。 ○俳句に込められた作者の思い ・「さ」に込められた作者の思い ・「さ」という表現からささ感じられた。」 ○作品の魅力・価値 ・「中学生らしい句」「さらしい句」 ・「さな印象を受ける句」 ・「胸に響く」「素晴らしい」「面白い」「楽しい」
---	---